

和歌山県庁文化国際課メールマガジン★NO.18★



夏はあっという間に去ってゆき、もくもくと盛り上がった真っ白な入道雲やコバルトブルーの海、夜空に響く綺麗な花火は、もう遠い昔のように思えてしまいます。

皆さんはこの夏を如何過ごされたのでしょうか。

私ども和歌山県文化国際課は、今夏も猛暑に負けない熱意で世界各国との交流に取り組んでいました。スペインやブルネイとの青少年交流や中国とのシニア層の交流などで盛り上がり、それに加え、北京世界陸上のオーストラリア代表チームの和歌山事前キャンプを手伝い、88 人ものプロ選手とともに貴重な時間を過ごしました。

あれ？どうしてオーストラリア代表チームが和歌山をキャンプ地を選びましたって？
では、早速、その理由を探してみましょう。



■ 文化国際課だより ■



中国・山東省老年大学の皆さん来県！



世界各国と青少年交流を積極的に取り組んでいる和歌山県は、シニア層での交流も積極的に進めています。

スタートを切ったのは、中国山東省にある※山東老年大学との交流です。（※山東老年大学とは 1983 年に中国国内で初めて設立された高齢者教育機関であり、現在は約 19,000 人の学生が登録しており、書道、中国画、スポーツ、文学、声楽、舞踊等 60 もの専門コースがあります。）



和歌山文化協会茶道部による茶道披露

6月23日に、山東老年大学から校長先生を団長とする公務団6名と50代から70代までのメンバーで構成された学生団42名が和歌山県を訪れ、和歌山文化協会（楠山繁会長）の会員の皆さんと交流を深めました。

交流会では、日本文化を代表する茶道を和歌山文化協会茶道部が披露し、しなやかな振る舞いで中国の皆さんを魅了しました。和菓子を食し、抹茶を味わう学生たちから、「美味し

い」の声が絶えずに上がっていました。



山東老年大学学生団による
チャイナドレスショー

続いて、山東老年大学学生団が合唱や太極拳、バレエ、チャイナドレスショーなど中国文化を表す演目を披露し、日頃学校での学習成果を披露しました。

皆さんが若者顔負けのパワーで会場を圧倒しました。

その後、中国の伝統手芸「切り絵」、「しんこう細工」を会場全員で体験し、和気あいあいの雰囲気では会場は盛り上がりました。閉めに和歌山文化協会詩吟部が中国詩を吟じながら、日本舞踊を披露し、日本と中国のゆかりの深さを来場者に感じさせ、交流会の

余韻を残しました。

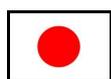
交流会の後、学生団の皆さんが白浜などを訪れ、和歌山のグルメや温泉を堪能され、公務団の皆さんが翌日に御坊市役所へ赴き、次回の交流に向けて協議を行っていました。

青少年交流とは全く違う雰囲気でのシニア層の交流。新鮮感を覚えるとともに、皆さんのパワフルさに感動し、元気づけられました。高齢社会が深刻化していくと言われる日本と中国にあっては、互いに理解を深め、絆を強め、このような交流が今真に大切だと実感しました。

次回の交流も楽しみにしています。



中国伝統手芸「切り絵」体験



スペイン・ガリシア州青少年交流団来県



熊野古道を有する和歌山県は、キリスト教の巡礼路として知られる“サンティアゴへの道”を有するスペイン・ガリシア州と1998年に姉妹道提携を結び、以降、さまざまな分野での交流を行っていますが、2010年からは青少年交流を行っています。

今回は5回目の受入を数え、8月17～24日、ガリシア州の19～27歳の若者14名が来県し、和歌山大学での交流会、湯浅町見学、湯浅国際文化交流協会での交流、熊野古道体験、白浜散策の後、田辺市や上富田町などで3泊4日のホームステイを行いました。

熊野古道体験の日は、和歌山県熊野世界遺産センターで熊野古道について説明を受けたあと、残暑厳しい中、熊野本宮大社、大門坂から那智大社、青岸渡寺、那智の滝を訪れました。大粒の汗を流しながらの見学となりましたが、時間の許す限り説明を受けたり、写真を撮ったり、興味津々で見聞きしていました。

毎年、ホームステイを最大の目的として、この交流に参加を希望するガリシアの方が多
いのですが、不安も少なからずあるようで「自分の英会話力は高くないが、通じるだろ
うか?」「こんな格好で失礼ではないだろうか?」など、ホストファミリーと対面するまで少
し緊張気味でした。

しかし、最終日、ホストファミリーとの別れを最後の瞬間まで惜しんでいる姿を目にし、
ホストファミリーと過ごした数日が、いかに素晴らしいものであったかが伝わってしまし
た。ガリシアの皆さんに伺ったところ、「ホームステイを経験したことで生活や文化の違い
を知り、新しいことを学べた。」「和歌山とガリシアの共通点も多く発見し、理解が深まる
とともに自身の視野が広がった。」との声がありました。また、「和歌山滞在中に知り合っ
た人たちのホスピタリティーに感激した。」という感想も数多く寄せられました。

今後も両州県の関係がより良いものとなるよう継続的な交流を行い、互いの理解を深め
ていきたいと思えます。



那智の滝



大門坂・夫婦杉

番外編!



オーストラリア陸上チーム 世界陸上事前キャンプ in WAKAYAMA

8月22日から30日にかけて、“世界陸上”が中国・北京で開催されました。日本初の競
歩でのメダル獲得やジャマイカチームのボルト選手の活躍が話題に上るなど、テレビで観
戦された方も多いことと思います。

その世界陸上に先駆け、和歌山市内において、オーストラリア陸上代表チームが事前キ
ャンプを行いました。オーストラリアと中国は時差はあまりありませんが、季節が逆とな

るため、コンディションの調整が主な目的です。2020年の東京オリンピックの際も同じ場所でキャンプを行うことを希望し、日本国内で候補地を探していたチーム関係者が、昨年和歌山に視察に訪れ、充実したスポーツ施設や関西国際空港からのアクセスの良さなどを評価し、キャンプ地を和歌山に決定しました。

期間中、選手やコーチ、チーム関係者延べ88人が和歌山市内のホテルに滞在しながら、紀三井寺公園陸上競技場や紀ノ川沿いを練習拠点とし、調整を行いました。

キャンプ期間中には、知事や教育長も出席して歓迎セレモニーが行われたほか、練習のメディア・一般公開や、市内中学生への陸上教室も開催されました。陸上教室に参加した中学生は、世界のトップ選手から直接指導を受け、刺激を受けたようでした。

合宿中、選手やチーム関係者は、練習だけでなく、和歌山城を散策したり、茶道や折り紙などの日本文化体験を行ったりするなど、リラックスした雰囲気での滞在を楽しんでいました。

世界陸上本番においては、オーストラリアチームは、銀メダル2個（男子走り幅跳びファブリス・ラピエール選手、50km競歩ジャレド・タレント選手）を獲得、複数の入賞など、優秀な成績を収めました。

和歌山県は今後も教育庁スポーツ課が中心となり、2020年の東京オリンピック・パラリンピックを念頭に、外国チームのキャンプ誘致に取り組んでいきます。



歓迎セレモニー



陸上教室



折り紙体験

※今回のキャンプでは、国際交流員が通訳・翻訳のサポートを行いました。また、国際交流協会の通訳ボランティアのみなさんも活躍されました。

クイズ! 海外豆知識!

Q. 8月に和歌山市内で事前キャンプを行ったオーストラリア陸上代表チームは、国のシンボルカラーにちなんだ緑色と黄色のユニフォームを着ていましたが、この色は何を表しているのでしょうか。以下の選択肢のなかから、正しくないものを選んでください。

- | | | |
|--------|-------|---------|
| 1. ビーチ | 2. 牧場 | 3. 鉱物資源 |
| 4. 森 | 5. 太陽 | 6. 羊毛 |

■ 和歌山県職員による「異文化体験記」 ■

皆さん、こんにちは。文化国際課の宮本です。

昨年8月から、インド・マハラシュトラ州のオーランガーバード（マハラシュトラ州の真ん中辺りにあります。）で勤務しています。

『インドって、どんなところ?』、『インド人って、どんな感じ?』、『インド料理って、どう?』など、友人等からよく質問されますが、『僕の住んでいるオーランガーバードは、……』という答え方をしています。

というのも、とにかく、『インドは広大で、多種多様!』。インドの人口は、約12億人で、面積は、日本の約9倍です。言語も、ヒンディー語が公用語ですが、21の州公用語が憲法で定められていて、州公用語によって、言葉、文字が全然違ってきます。各州が、まさに一つの国のようです。

ちなみに、マハラシュトラ州の概要は、下記のとおりです。

州都：ムンバイ（旧ボンベイ）

人口：約1.1億人

面積：約31万km²（日本：約38万km²）

州公用語：マラティー語

インドへ派遣されて約1年が経ちますが、オーランガーバードで感じた異文化を今回、紹介したいと思います。



<インド（オーランガーバード）あるある>

◇サリーは、既婚女性が着ます。

女性は結婚すると、

- ①サリーを着て
- ②ネックレス（金色又は黒色）をして
- ③足に指輪をつける

ので、服装から結婚している女性かどうか分かります。



◇ご飯を手で食べるときの作法

右手（人差し指、中指、薬指、小指）で、スクウのようにして食べます。第一関節までを使って食べるのが、上品な食べ方とされています。



◇インドの交通事情（踏切）



インドは、日本と同じ左側通行ですが、

- ①道路全部を占領して、線路を挟んで、向かい合って電車が来るのを待ちます。
 - ②待ちきれず、踏切内に入って電車が来るのを待つ人もいます。
 - ③遮断機が上がると、（もちろん）左側通行ですれ違います。
- ⇒列を作ったり、待ったりすることは、苦手なようです(^^)

◇インドの交通事情（バイク）

オーランガーバードでは、ヘルメットをかぶってバイクに乗っている人を見かけることは殆どなく、3人、4人乗りは、当たり前です。



※交通ルール上は、ヘルメット着用の義務があり、大人の2人乗りまでが認められているそうです(^;)

◇インドの交通事情（番外編）



・道路上で、牛だけでなく、バッファローもよく見かけます。牛ミルクだけでなく、ヤギミルク、バッファローミルクも人気です。

※バッファローミルク：

栄養価が高く、他のミルクに比べると高価です。味は、牛ミルクより少しコクがある感じです。（美味しいです。）

・オーランガーバードでは、車は、まだまだ高価な乗り物で、バイクが主な移動手段となっています。

<最後に>

オーランガーバードで生活していると、『40年、50年前の日本は、こんな感じだったのかなぁ。』と思うような状況に出会うことがあり、日本のように経済水準も高くなく、大

変さを感じることはありますが、同時に、最近の日本では失われつつあるような、温かな人間関係（家族の絆、人とのつながり）も強く感じます。改めて、社会のあり方、家族のあり方を考えてしまいます。日焼けした顔のインド人に、ジッと見られると、正直、少し怖いですが（外国人が珍しいのか、オーランガーバードでは、よくジッと見られます）、負けずに笑顔で見つめ返すと、素敵な笑顔で応えてくれる、とても優しい人達です。



メキシコ移民の歴史に関するプレゼンテーションの紹介



◎和歌山県の HP にメキシコ和歌山県人会元会長である、アルベルト・テラモト氏の移民に関するプレゼンテーション資料が掲載されています。

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/022100/kokusaikouryu/kenjinkai.html>

この資料は、今年4月にメキシコ和歌山県人会創立30周年を記念して行われた、祝賀会開催時に披露されたものです。和歌山県の移民の歴史のみならず、日本移民の歴史を理解する上で興味深い内容となっています。是非一度ご覧下さい！！

本メルマガは、和歌山県文化国際課ホームページから
読者登録できます

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/022100/kokusaikouryu/mailmagazine/mailmagazine.html>

国際交流や海外にご興味をお持ちのご友人やお知り合いの方が
いらっしゃいましたら、
ぜひぜひ本メルマガをご案内して下さい。



これからは我々の味覚を楽しませてくれる収穫の季節に入ります。秋の和歌山では、周知のように、全国屈指の生産量を誇るみかんや柿、キウイなど、そして幻の魚と呼ばれるクエ、漁獲量が全国の上位を占めるマダイ、トビウオ、伊勢エビなど、様々な山と海の幸を存分に堪能することができます。これらの和歌山の美味しい食べ物は、国内の皆さんにはもちろん、海外の皆さんにも、是非どんどん食べに来て頂きたいです。

今号も最後まで読んでいただき、誠にありがとうございます。これから秋も交流事業をたくさん行う予定です。次号でその様子をお届けしますので、どうぞお楽しみに。

クイズの回答

5. 太陽

ユニフォームの色は緑色と黄色に見えるのですが、実際のオーストラリアのナショナルカラーは、緑色と金色です。この色はオーストラリアの代表的な風景や産物を想起させる色であり、具体的には緑色は森やユーカリの木、牧場、金色はビーチ、鉱物資源、収穫期の穀物、羊毛を表しています。

